# 情緒としてのあかり

〜　感情的なアプローチ　〜

## 灯りで生み出す付加価値

建築、商業施設、インテリアデザイン。どれも照明効果を考え、単に明るさを取る道具ではなく、情緒に訴える光を考えるようになってもうずいぶん経つ。

しかし、住宅においては、30年前とあまり変わっていません。相変わらず部屋の真ん中にシーリング照明が鎮座し、ダウンライトは補助的な扱いを受けている。

照明は今でも「明るさを取る道具」としての位置付けがそうさせている。

「情緒」に響く照明の考え方は、明るさを取る道具と真逆で「暗さを作る」ことを考える。

そのためには、3つのポイントを押さえます。

- ●人の心地よい明るさは個人差があり、一定ではないこと
- ●同一空間において、光を分散させ、各々の光の役割を与えること
- ●光の強弱を可変出来ること

この3つを整えます。

ここには照度の設定は存在しません。暗くても心地よければそれでいいんです。

わずかな灯りが壁を照らすだけの光で十分。いつも同じ光環境にする必要はありません。人の心に同調するように、寄り添う灯りを作ることが出来るように準備することが大切。ここが私のゴール設定。

では、どんな照明計画をすれば良いか？

リビングとダイニングが同一空間の場合の例を考えます。

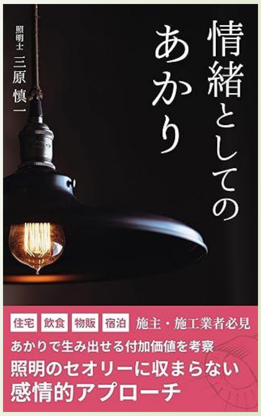
照明計画の考え方は「ゾーニング」を作ること。

- ●部屋全体は、天井を照らす間接照明（全体照明・基本照明）
- ●ダイニングテーブルエリア（重点照明）
- ●本棚エリア（演出照明）
- ●床面エリア（基本照明）
- ●壁面エリア（演出照明）
- ●小物エリア（最重要演出照明）

これ全部採用すると、6エリアのゾーニングの構成。

このゾーニングを回路としてスイッチ設計し、器具選定に結び付ける。

そう、スイッチ計画が「情緒としての灯り」の原点なのです。



照明計画を切り口に暮らしの提案の幅を広げてみませんか？インテリアを引き立てる照明術。豊かな暮らしには、照明の効果や演出が必須アイテム。こだわりの場所やちょっと自慢の場所のインテリアに灯りのスパイスを効かせた提案をしてみてはいかがでしょうか。

info@design-akari.com
Tel : 04-7196-7142

詳細お問い合わせは、

株式会社　灯り計画